

龍溪志餘七卷

全

特別
A5
6590
104



新の服等この是妙



○ 兼白ハ夫より一帯^{ヒヤウ}は^シ丈^{チヤウ}ら^ウは^ハ結^{ケツ}履^{リョウ}

夫^ウより^ヒハ^ハ一^ヒ帯^{ヒヤウ}は^シ首^{カビ}の^ノ飾^{カゼ}ら^ス

○ 續^{ツギ}ハ^ハ地^チ多^タりの^リ信^{シン}る^ル夫^ウを^シ文^ブとして^シ飾^{カゼ}の^ノ如^ニ様^{ヤウ}

宗^{ソウ}為^シる^ルは^ハ俗^{ソク}之^シ又^{マタ}以^{ヨリ}為^シる^ルと^シ之^ノ事^{コト}也^{ナリ}是^レも

夫^ウの^ノ心^{ココロ}を^シ法^{ホウ}て^シ其^ノ因^{イン}飾^{カゼ}を^シ造^{ゾウ}る^ル如^ニ様^{ヤウ}

眼もくを時をんて卯の花の比がま
セ夕のまはがとんて徳も比ふはま
刻はまきまう肌をま比

山指まのめんま日中民

○才に六神八人こまて天地の句はま
をひくま之を白根才に是別天

地神のこまたりまを対するま
才この神を結して徳の神あり
此心能知るをし根まうをまひま
才に六根飛才にこま字をまを意
家の神まま有

付るらやま首の十文字

去来

書ても白し卯の宛の以

其角

是を根の以るよと云

○オとよみののりなりかてん字先也
武ヒよこの首付はよらんかきしけん之
他ニらしむの何ニ字らん為レたニ字
よとよニ字ハかレらシんニ此教也

○オとよみののりなりかてん字先也
武ヒよこの首付はよらんかきしけん之
他ニらしむの何ニ字らん為レたニ字
よとよニ字ハかレらシんニ此教也

○四角メハカク白紙にてレるを訓也

○花様の半、生^ヒ佛の極秘あり

老の心、見^レ何^レ一^レ色^ヲを^レさ^レ

さうえハ近^キを^レさ^レ

花様の半、口^ニ傳^ヒる^ニは^レ花^ノ様

此^ノ句^ハ波^ノ人^ノ言^ハし^テ師^ノ語^ヲを^レさ^レ

是^レハ^レく^レと^レは^レあ^リ花^ノの^言將^ト山^ノ泉^ノ言^ハ

本^ノ下^ハけ^ハも^ハ糖^ヲも^ハう^レべ^シ たま

花^ノま^ハら^ハる^ハを^レさ^レ 花^ノ言

山^ノを^レゆ^リ路^ノ一^ノた^ハ花^ノの^言

黒^ク深^クが^レみ^レに^レ見^レら^レる^ハ て^レる

様^ノを^レさ^レる^ハ て^レる

様^ノを^レさ^レる^ハ市^ノの^言 て^レる

大和路へ入しは吾等の足見なり（モロ）

此句より能考うか

みれば其妙

○又の所の傳授ハ各々心ゆくまことにハ
守方の句を述ク尤も其妙の法を
知るは一人ありに且その日を

知る人の力物一合よりして勅るる

海にあり

引る言はれし能く（考）

待てやつすハ二見（因志あり）（其）

名はやくとる生さし子まかり（其）

しよ海や海花を煮たりるの言のこれ（其）

酒丸スライム今イマはよかたの今イマも
秋アキ

此コノ白シロくクしシらラかカかカ知チらラんン—

○難ナガシの白シロくクの意イ名ナ前マの意イかカの意イ若ニホくクは

せぬ事コト之ノ意イ名ナ前マの意イかカの意イ若ニホくクは

海ウミの路ミチの雨アメやヤ意イ名ナ前マの意イかカの意イ若ニホくクは

歩ツクリ行ユクちチらラてテ杖ツツ実ミ坂サカの意イ若ニホくクは

此コノ白シロくク考カウ考カウ—

み人のこころココロ弱ヨクの切キレ子コの事コトもモ知チらラんン—

多タくクもモ一ヒト白シロくクの意イ名ナ前マの意イかカの意イ若ニホくクは

の極キョクをヲ知チらラんン地チ見ミの意イ若ニホくクは

去ク年ネン同ドウ 切キレ子コの意イ若ニホくクは

翁オウ答コタヘ曰イハス 何ナニの事コトもモ知チらラんン—

交考同

切字ハ十七卷ニハシテ

翁卷

此五ノヨク年ヨリ一有ヤ

許六同

翁ノヨク年切字ハシテ

翁卷

一可一白ノ御字アリ

飛穿同

切字ハ年切字ハシテ

翁卷

切字ハ年切字ハシテ

其角同

切字ハ切字ハシテ

翁卷

切字ハ切字ハシテ

翁卷

切字ハ切字ハシテ

翁卷

切字ハ切字ハシテ

翁卷

切字ハ切字ハシテ

翁卷

切字ハ切字ハシテ

公卿の歌の集よりんなり

玄妙ゴクの秀ウツクの書

松白マツシロ。花ハナや。亭テイのニ花ハナ也。
水ミヅ空カラ。山ヤマや。亭テイのニ花ハナ也。
月ツキ細ホソ。桂カウラや。亭テイのニ花ハナ也。
名ナのニ花ハナ也。月ツキや。桂カウラをハつ。

玄妙の切キレ。八ヤチのニ花ハナ也。入イレのニ花ハナ也。其ソノ名ナにハ切キレ。
切キレのニ花ハナ也。八ヤチのニ花ハナ也。入イレのニ花ハナ也。其ソノ名ナにハ切キレ。

玄妙の切キレのニ花ハナ也

目メのニ花ハナ也。山ヤマのニ花ハナ也。初ハツメ松マツ也。
目メのニ花ハナ也。山ヤマのニ花ハナ也。初ハツメ松マツ也。

林ハヤシのニ花ハナ也。山ヤマのニ花ハナ也。初ハツメ松マツ也。
林ハヤシのニ花ハナ也。山ヤマのニ花ハナ也。初ハツメ松マツ也。

玄妙の切キレのニ花ハナ也。山ヤマのニ花ハナ也。初ハツメ松マツ也。

又七女といふことし心あやむるは
云々

二子如しの書

子た^う鳥よ^い登^こ流^り嗟^いぬ^い凡^らむ^もむ^も 一篇

是ハ^い玉^いめ^いる^い 一 ^い路^いの^い書^い世^いら^いる^い 一

二子如の書

山^い空^いし^いの^い底^いや^い水^いの^い底

二海^いのお^いお^いの^い書

い^いあ^いる^い ^いあ^いる^い ^いあ^いる^い 三

は^いか^い ^いあ^いる^い ^いあ^いる^い 三

あ^いる^い ^いあ^いる^い ^いあ^いる^い 三

右^いの^い書^いの^い考^い 一

月お美ふ乃大幸

此所言継人をんらるる月お美ふ
年々もあし 瑞りきお美ふ神の
系物。一あり月又秋のまの系物
ちり物事の本事の上のたなえ
お美ふの月お美ふ

月お美ふの身今あは
右口結の白お美ふの瑞りあは身は
あり陰の瑞りあは身は陰に
年々もあし

松の内神功舎にせぬ
春の若ら^{ユメ}も物あはあ美^ミ珍^シ

表ヲモテ裏ウラ太事タウシのまじりの妻ウメより
ゆきに

将禮マサレのまじりマシのまじりマシ

別ワカれ 涙ナミ 又 均ヒトす 疾ハヤシに 重オモく
次ツギ手 名者ナナ 名者ナナ 甲カ合カ 長チカ心ココロ
手物飽テモノら 許ヨク 世教セキウ考カウ 知チる 命イし

年トシのまじりマシ

老オシの身ミのほホかカりリ許ヨク。疾ハヤシ完カンのコトおオまマりリ
病ヤマト許ヨク。限カハりリのコト大オホ方カタ増マシれル、
いイこコよヨ回マいイとトしシまマんンのコト心ココロのコト教カウをオ入ケしシ
てテ云ク々クしシ一ヒト十ジュウちチらラ六ロク四シ十ジュウ七シチ平ヘイ急キウ
六ロク才サイとト入ケてテ云ク々クしシ

か増没世乃詠文の世

百の世がの世 何と 海世の世

住者 此教せぬものなり

元服袖を世を禱念の世

消る世 夜々の世 諸子の世

すゆて親子のかりきよの教ふ世

新定の世 并に舎席

煙り立 時を焼 薪の焼系 山の世

送る世 何とて火焼世の考

若者の世

老の中世なるう 若者の世 若者の世

はうち世 はうちなる 若者の世

此歌世ぬるえ舎を岸よりりる所

送善

浮双がしし かしし 三ッ濃川

海より深て 中々の名 血の池

一切地獄の沙汰 鳴る 雲ら

葉子 け歌世ぬるえをたて名

若の舎の夜

らんを 自あへ 入舞の沙汰

不仁の類 何事をも人の身より

おとせぬるえ 沖公儀 世の中

ささらりあふし 足爪のたしあみ

あふるし 絶つ法

首切乃支

首切と上のみな中七文字の身
うぬを古車は能く云ふ一に六

衣打の浅芽アサギの里物サトのそ

此句衣打浅芽とつゝかぬえ

衣打里の浅芽にアサギのそ

如是云つたみとみはミ續しと継ツグ留

うそめつに續うんぬ

衣打アサギのそがめはアサギのそアサギのそ

是とがアサギのそがめはアサギのそアサギのそ

一字のめつて連續す

首切のそがめはアサギのそアサギのそ

お早の時ハハハハハハハハ

冠ハハハハハハハハ

ふん落の前ハハハハハハハハ

お是ハハハハハハハハハハハハハハ

ふんハハハハハハハハハハハハハハ

唇ハハハハハハハハハハハハハハ

山鳥ハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

山鳥ハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

精ハハハハハハハハハハハハハハ

是ハトハミヤノ下ノミヤノ連続セ
中ノミヤノ折ビノミヤノ連続セ

折ビノミヤノ連続セ

折ビノミヤノ連続セ
又ハミヤノ連続セ
折ビノミヤノ連続セ

折ビノミヤノ連続セ

折ビノミヤノ連続セ

折ビノミヤノ連続セ
折ビノミヤノ連続セ

折ビノミヤノ連続セ

折ビノミヤノ連続セ

よふきとらあ

右郷とあらまてし人の仲津トナリ証

此云の二十のふ文字用よきえふす

重を能得るなり

任名や今りの汐平にあり

如の云りて是下のふ文字用よきえふす

云兼ふらむし物ら連続の縁云成

与一とらたむし如の類は清きん

能得る縁言連続したる右作り

面ふくもあふんあを云うてゆんれ

孝みか切者道の御せりししてゆ記

ぬるやとらくまらるるくこのるのゆ

亦是のたぬし共止千のま

衆日死法の大事

凡の死法と云ハ師傳等々加り
一白二の魂を討ハ死白したとバ

是の考にいふ淋しみ少夜キミタ礎
是死白といふは魂をたて云

七の考に上ぬしはら礎いし

也の作所ハ衆白也活白いしも衆白也
感傷かこのをも云切て何のぬらり
何の感傷かこのあり是れ夕心ゆふこころに在り
蕙いしの重是也

一の子を結

在トナリ一ウキ一ウキ 赤一ウキ 如是

クキウイニヨクニ一ハ切知ウキ

是ハ直ニウキハ切知ウキ

卷の白紙を結の草

正の乃をウキハ切知ウキ

ふ大かウキハ切知ウキ

是ハ直ニウキハ切知ウキ

是ハ直ニウキハ切知ウキ

糸利

ト

此卷之蕉湖之秘書多外門獨流
化鳥自有世尔撰之他見不可致

今日庵元夢

文化十年酉純陽潤日

和樂寫

